

12月号

第454号

いっしん

令和4年(2022年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPの写真はカラーで見れます》

今日あるを
神のみかげと
礼ぶにも
詫びの言葉も
忘るるなゆめ
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神歌

立教163年／教祖様139年／教団独立122年／小倉教会布教137年／甘木親教会布教118年／
加治木教会布教71年（令和5年2月26日、矢野政美大人25年祭・サダ子大刀自10年祭）



チャレンジカードの表彰、本人やお母さんやお祖母ちゃんたち

生神金光大神御大祭 仕えられ

チャレンジカードの表彰も

菊の香薫る、秋の最中の十一月十三日(日)、加治木教会 生神金光大神御大祭が仕えられました。

ご祭典がうるわしく仕えられ、立教神伝奉読後、少年少女会員のチャレンジカードの表彰がありました。

チャレンジカードは、五月から七月にかけて親子で取り組む、少年少女会員の信行取り組み表で、少年少女会連合本部が、少年少女全国大会に向けて行っているものです。

八月初旬に開催される全国大会での展示に間に合うように、七月に回収して連合本部に送りますが、少ない日数で間に合わない会員もいますので、取り組んだ会員皆がこの日表彰されました。

この日は「文化の秋」「スポーツの秋」「七五三詣での秋」で忙しい日でもありました。元気にいろんなことに取り組めることを御礼申す、信心の稽古にチャレンジさせていただきます。

加治木教会

《十月十三日(日)》

生神金光大神御大祭

仕えられる

秋も深まり行き、新型コロナウイルス感染症の第七波がやや収まってきた、十一月十三日(日)、加治木教会では生神金光大神御大祭が仕えられました。それで海外では第八波の兆候が見られる国もあり、新型コロナウイルス感染症の感拡大に気をつけながらの御大祭となりました。



安武秀信先生 (大口教会長)



「ご祭典は、コロナ禍対策のため、祭員の先生は四名でしたが、麗しく仕えられました。」

祭詞では、教祖様の長年にわたるご修行と、生神金光大神御取次の道開きのご苦勞をお称え申し上げ、世界真の平和と、お道の発展、世界中に蔓延しているコロナウイルス感染症の一日も早い終息や、などをお願い申し上げます。

「ご教話は、安武秀信先生(大口教会長)で、生神金光大神御取次を願うことのできる、このお道のみ働きの尊さをわかりやすくお話し下さいました。」

各会を代表して玉串が奉奠されました



前日の御用は、密接を避けるため直会調理の御用はなく、お広前の掃除・活け花・カーペット敷き、三名の先生方が更衣などをされる二階ホールに掃除など、和気あいあいの中に進められ、おかげを蒙らせていただきました。



活け花



カーペット敷き

前加治木教会長

矢野政美大人

遺稿

矢野政美大人二十五歳祭・矢野サダ子大刀自十年祭を
来年（令和五年）二月二十六日にお伝えさせていただく
にあたり、矢野政美大人の遺稿を掲載し、改めて読み直
し、信心姿勢を頂き直し、お慰びさせていただこうとす
るものであります。



矢野政美大人

昭和四十
八年、甘木親
教会の『しん
あい』十一月
号から八回

にわたり掲載された『母の想い出』
は、矢野政美大人が昭和四十六年十
二月に布教二十年祭を仕えられた折
にお直会の冊子として執筆されまし
た。その文章の「序文」は、後に再
版された冊子からは省かれていま
すが、矢野クラ刀自のご信心の歩みを
端的によく表してあるように思われ
ますので掲載させていただきます。

序文

「疑いを離れて広き真の大道を開
き見よ、我身は神徳の中に生かされ

てあり」また、「我子の可愛さを知り
て神の氏子を守りくださる事を悟れ
よ」「可愛いと思う心が神心ぢや」と、
神教え給えることく、限りなき天地
の御恵みの中に生かされ、万物の霊
長としての尊き生活が営まれること
は、何と勿体ないことであらうか。

しかし、「天地の間に氏子居ってお
かけを知らず」「神の教も真の道も知
らぬ人のあわれさ」と、神嘆かせ給
えることく、この生命の根源である、
天地の大神に目覚めずして、自ら苦
難の道をさまよう人々のいかに多き
ことか。

ここに、矢野クラ刀真心刀自が、う
ら若き二十三才の身をもって、貧苦
と病難にたたかい、安武ツネ刀自の
お手引きによりて、天地に親神様ま
しますことを悟り、恩師安武松太郎
大人の深き厚き御取次を蒙りて、七
十五才で生涯を閉じるまでのおかけ
の数々、かつまた、信心の道を求め
に求めて、止むことなきありし日の
思い出をたどり、母刀自を偲びて、
拙ない筆をおろさせていたいただい
たもので、「真心の道を迷はず失はず末
の末まで教え伝えよ」との御神意に添

わしめ給えと祈らせていただく次第
であります。

金光教加治木教会長

矢野政美

（昭和四十八年 甘木教会
『しんあい』十一月号より）

『母の想い出』は、布教五十年記念大祭（平成
十三年）時にも再版させていただきましたが、残
部がありません。しかし、インターネットの加治
木教会のホームページで、閲覧することができま
す。拙いホームページですが、時間のある時にで
もお目通し下さい。

・・・・・・・・・・・・・・・・

「金光大神大祭を迎えまつる」

昭和五十九年いっしん十二月号より

昭和五十九年も余すところあと一ヶ
月となられました。いろいろな想い
出を残して過ぎようとしております。

ところで、来る十一月九日には、
私共の教会で「金光大神大祭」を奉
行させていただくわけでありますが、
教典五二六ページの直信 近藤藤守
師の伝えに、

「此方金光大神あって天地金乃神の
おかげが受けられるようになった。

此方金光大神あって神は世に出たの
である。神からも氏子からも両方か

らの恩人は此方金光大神である。金光大神、と頼んでおけばよい。此方の言うことを聞いてそのとおりにすれば、神の言うことを聞くのと同じである。金光大神の言葉をそむかないように、よく守って信心せよ」

とお知らせがあったと、仰せられてありますが、もしこの世に金光大神様がご出現なさらなかったら、私共はいったいどうなっておったでしょう。か、私自身のことを思いましても、今から八十年前の明治三十七年の暮れに、父の大病がもとで母が初めて甘木教会のお広前にお参りさせていただきましたことに始まって、爾来八十年間、限り知られぬ大みかげを蒙ってまいっておるのであります。

また、天地の中に生まれ、天地の中に生かされ、今月今日のお生命を頂いておられますというこの有り難さ、切ないまでの親神様の御心を教えて下さり、親神様と氏子の中にお立ちあそばして御取次下さる金光大神様に御礼申し上げても御礼申し上げても足りない思いが致します。

共々に、大恩人であられます金光

大神様の御祈りを頂いて心からなる御礼お詫びを申し上げますとともに、まわりの難儀な人々が一人でも多く助かる御用にお使いいただきたいと念願申し上げます。

昭和五十九年「いっしん」十一月号より

感 詠 (矢野政美大人)

蒼き空黄金色なす稲の波
み親の神の恵み尊し

み親なる甘木の広前八十年なる
みまつりあおぐ我は幸なり

我が母がみちびかれたる広前へ
詣でいけるその当時偲び

天地の神のみ祈り受けまして
取次ぎ給ふ我が師を思ふ

限りなき神のみこころ畏みて
取次ぎまして八十年なるかな

師のいます甘木の里は近づきぬ
礼び畏む八十年祭

我が神はまことの親神世に多き
道徳でもなし倫理でもなし

ご霊神様のおまじ

十二月

- 吉屋正憲 之霊神(2日) 平成11年
- 本中野キン 之霊神(7日) 昭和10年
- 大山キク 之霊神(7日) 平成7年
- 小屋敷シゲ 之霊神(7日) 平成8年
- 柳園市次郎 之霊神(8日) 昭和25年
- 本中野重盛 之霊神(8日) 昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常 之霊神(18日) 平成2年
- 村上忠夫之霊神(20日) 昭和48年
- 大山スエケサ之霊神(24日) 昭和51年
- 大山きよ子 之霊神(28日) 昭和43年
- 吉屋キミ 之霊神(30日) 平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

今日あるを
 (甘木教会初代教会長
 安武松太郎師御歌)
 神のみかげと礼ぶにも

詫びの言葉をおぼるるなゆめ
 (今月号表紙の句)

「親神様の偉大な「神徳」の中に生かされて、今日も命を賜り、健康のおかげを頂いて、当たり前前に目覚めることができることがどんなに尊いことが、年を取ることによって身についてよく感じるようになってきました。「信心はお礼が土台」と教えられており「世話になるすべてにお礼を申す」「ふだんの稽古が、また大切であることも教えられております。

お礼を申すということとは、人に対して、また物に対しての、恩を知り恩を感じる確認作業で「知恩」から「感恩」そして「報恩」と、恩返しへとつながります。お礼を申さないということは、恩知らずということでもあります。今日、自分自身の命があること、存在していることは、少なくとも「天地の大恩」「親先祖の恩」「社会の恩」に恵まれ続けてきたからということをよくわきまえていただきたいものです。

それらの恩恵に、もしも気付くことがあるならば、まず、身近な「親の恩」ひとつ取り上げて、その有り難さがわからず、あるのが当たり前のように思い、知らず知らず長年過ごしてきた恩知らずな自分を、咎めもせず無償の愛情をそそいで恵み育て続けてくたださったことに対し、お詫びを申す心を忘れないようにすべきであります。

お誕生おめでとうございます

十一月五日、星原光太郎さん吏紗さんご夫妻に、三男尚太(しようた)くんが誕生されました。(愛知県豊田市 在住)

十一月十六日、萬代慎太郎さん麻佑子さんご夫妻に、長女都佑子(とこう)ちゃんが誕生されました。(宮崎市 在住)

お健やかなご成長をお祈り申し上げます。



あしあと

加治木教会行事記録

11月

- 1 (火) 報徳月例祭 10時半
- 6 (日) 多良木教会 御大祭
- 9 (水) 清掃御用 10時
- 10 (木) 月例祭(主神堂) 10時半
- 12 (土) 清掃御用(天神堂) 10時
- 13 (日) 加治木教会 御大祭 11時
- 18 (金) 婦人教師会(本木野) 10時半
- 22 (火) 月例祭(天神堂) 共励会 13時半
- 25 (金) 連合会執行部会(龍見寺) 10時半
- 30 (水) 清掃御用 10時

感 詠 (教会長)

この冷えが霧島山の紅葉を
 映えあるものに織りなしてゆく
 月食を天体ショーと見るけれど
 時々刻々が奇跡の天地
 これほどに手をつくせしと菊作り
 始めし頃の未熟を思う
 寒くなりようやく芽の出る種を蒔き
 鉢に何百ふたば出そろふ
 花苗の育つを見れば天地の
 恵み尊きことをよく知る

十二月三日(土)

甘木親教会

生神金光大神御大祭

参拝

※感染防止に心がけ、マスクの着用、手指消毒、自宅での検温などに心がけさせていただきます。

十二月三十日(金) 十三時半より

加治木教会

越年祭奉仕

越年祭、御礼・お願いの記入用紙をご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝) 正午より

加治木教会

元日祭奉仕

「祭典・教話後、福引。」

教会行事

12月

- 1 (木) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) ●甘木親教会御大祭
- 7 (水) 連布教協議会(加治木教会) 10時半
- 9 (金) 清掃御用 10時
- 10 (土) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 11 (日) 御本部布教功労者報徳祭(参拝は未定)
- 17 (主) 18 (日) 信徒部 教区委員会(日田教会)
- 21 (水) 清掃御用 10時
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (金) 安武文雄大人立日
- 29 (木) 清掃御用 10時
- 30 (金) ●越年祭 13時半

令和五年

1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
 - 2 (月) ※光風館予約日 10時
 - 3 (火) 甘木親教会年頭参拝
 - 8 (日) 清掃御用 10時
 - 9 (祝) ★少年少女女会「鏡開き」10時半
 - 10 (火) ●月例祭(生神金光大神様) 10時半
 - 併せて 成人感謝祭
 - 21 (土) 清掃御用 10時
 - 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
 - 29 (日) 連合会定期総会(鹿児島教会にて) 10時
 - 31 (火) 清掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会

「改まりの願い」(加治木教会)

自己中心の信心から
親神様の御立場に立った信心に、
親神様を使う信心から
親神様にお喜びいただき
ご安心いただく信心に、
おかげを信じる信心から
親神様ご神慮を信じる信心に、
改まらせていただく。



キク